

地域内の空き地を活用した菜園づくりによる単身高齢者等の健康・生きがい・つながり・居場所づくりプロジェクト(仮称)の提案

<2012年9月15日更新版>

ありむら潜 (釜ヶ崎のまち再生フォーラム)

●概要と目的

西成区に目立つのは孤立しがちな単身高齢者の方々。生活保護等でアパートを求め、あいりん地域から区全体に広がる。一方、大小の空き地・未利用地も少なくないことに気がつく。この状況を逆手にとって、両者を結びつけ、コミュニティ菜園をつくっていく。単身高齢者の健康・生きがい・つながり・居場所づくりに資すること大だと考える。

●効果

もともと畑づくりには不思議な力がある。何かができる。畑の効用。畑の可能性。元気な人にも、病気がちな人にも、いや若者にだって、畑はそれぞれに「効く」。菜園療法、菜園福祉という言葉もある。仕事づくりにもなる。地方出身者にとっての田舎暮らしへの憧憬。ヒートアイランド化への抑制などなども。ましてや、日雇い労働者時代にスコップを手に「地球をアート」していたおっちゃんたちが畑仕事の曜日を楽しみにし、そこでびっくりするほど元気になる事例は私たち支援団体も経験している。できた野菜の「出口」は、特区構想でできるだけ「屋台村」の食材とするのも夢がある。「都市と農の結合」という大きなテーマも向こうに見えてくる。

●経過(経験談)

実はこの10数年の支援団体による生活保護受給者支援の経験の中で、畑を求めて、和泉市・大阪狭山市・奈良県・三重県・丹波篠山(有機農法)と、遠くまで遠征しないとなかなかこれをやれなかった。「居住地域でできれば・・・」と指をくわえていたものである。釜ヶ崎のまち再生フォーラムでは2009年5月の「定例まちづくりひろば」を『春の野菜収穫祭 兼 プレ・畑サミット』と題して開催したこともある。これらの実践を引き継ぎ、状況を劇的に転換する！

●方法論

土地は暫定使用でも充分。畑に興味はあるが未経験で躊躇する人も多い。区内での成功事例を基盤に区全体に広げるため、区役所の支援も得て、「西成区コミュニティ菜園普及センター」(仮称)を設立する。その運営はプロポーザル型の公募によるソーシャル・ビジネスが担う。空き地の募集や調整などは区役所等がやるが、利用者・担当支援団体の募集や調整、集まる高齢者たちをリードする菜園コーディネーターの養成・派遣等をする。初めはリーダー養成だけに特化して立ちあげてもよい。そのための一定の人件費補助なども行なう。

●予算

平成24年度内には調査・検討し、同25年度から実施する。

